

資料1

石西礁湖の現状

2014年1月26日
第17回石西礁湖自然再生協議会
学術調査ワーキンググループ

環境省那覇自然環境事務所

1

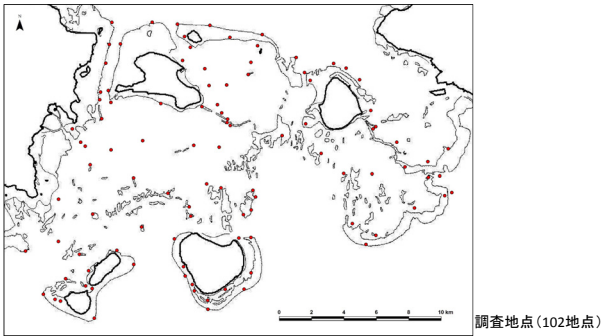
1. はじめに

- 石西礁湖サンゴ群集は、
 - 1998年白化、2006年台風13号、2007年白化、
 - 2008年頃～のオニヒトデ大発生の攪乱により衰退
- サンゴ群集被度変動について、
 - 既存調査サンゴ被度データを用いて、
 - 経年変化を分析し、その変動傾向を検討した。

2

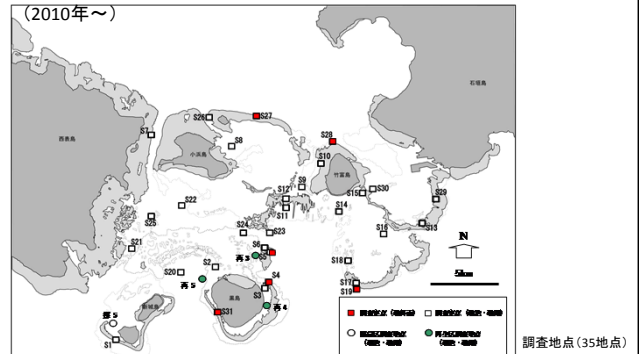
2. 方法

(1) 長期データ: 環境省モニタリングサイト1000調査結果(1983年～)



3

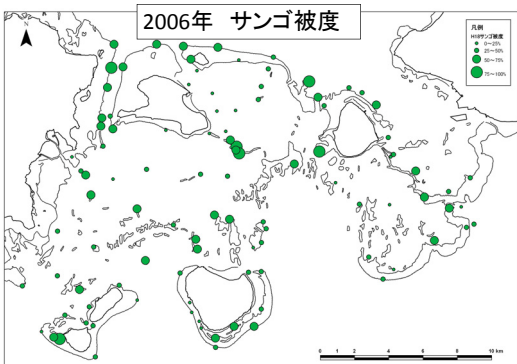
(2) 近年データ: 石西礁湖サンゴ群集モニタリング調査(那覇事務所実施)結果(2010年～)



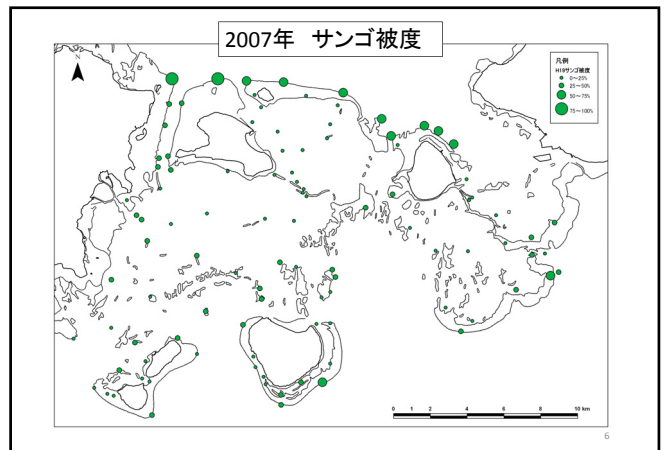
4

3. 結果

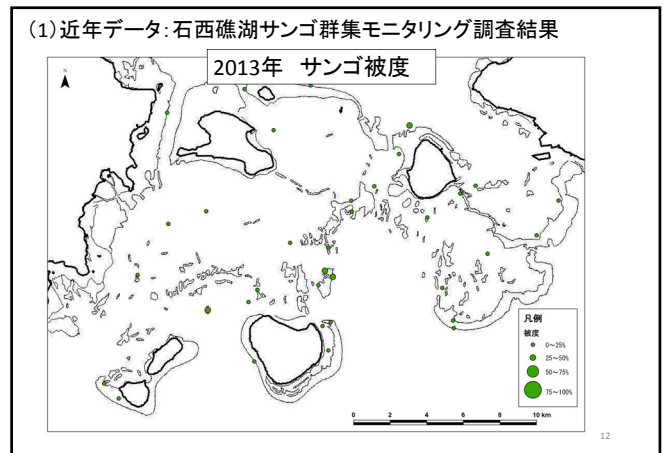
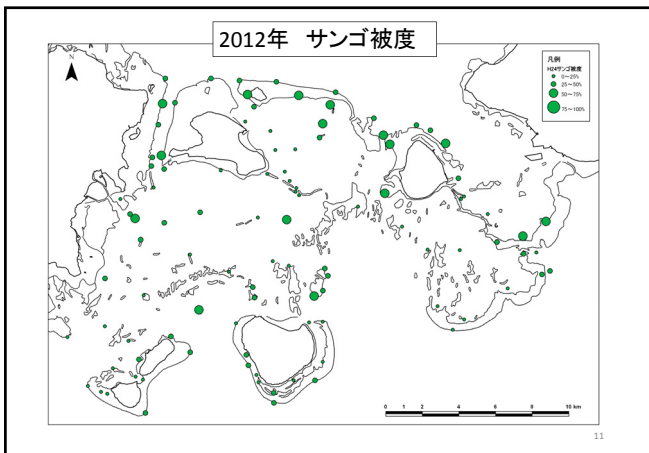
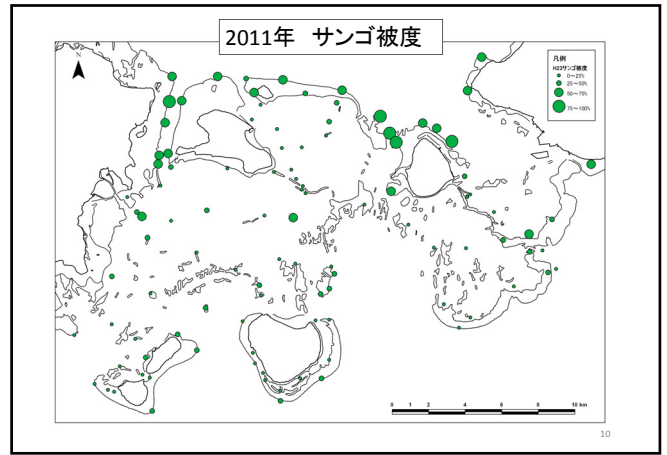
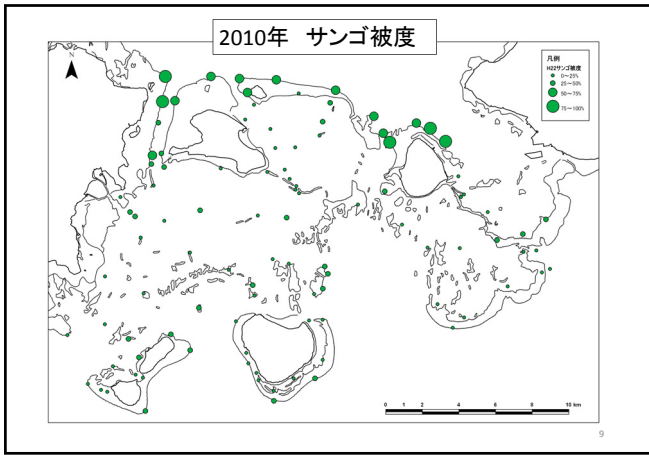
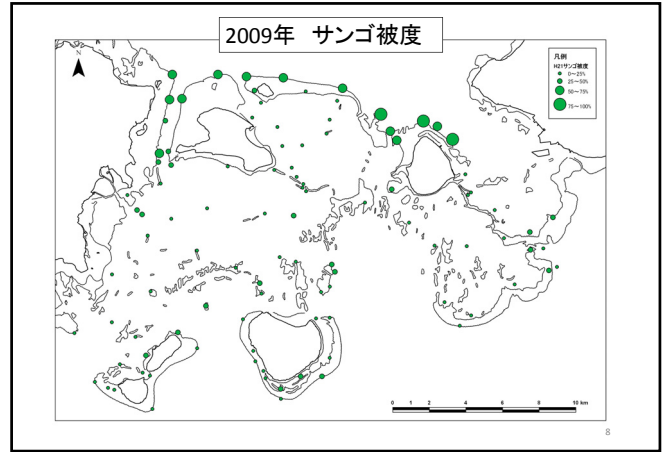
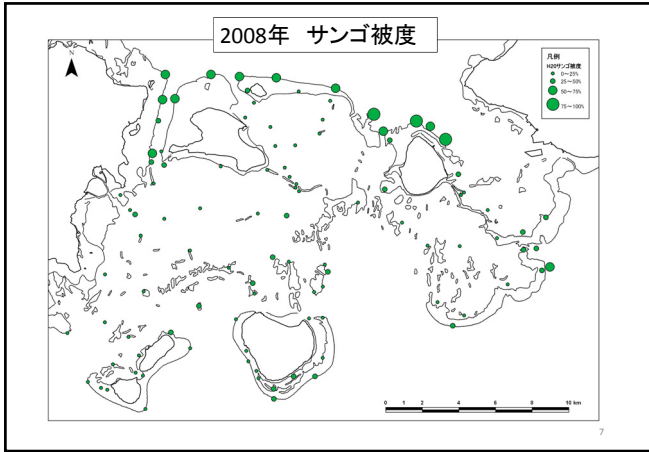
(1) 長期データ: 環境省モニタリングサイト1000調査結果(1983年～)

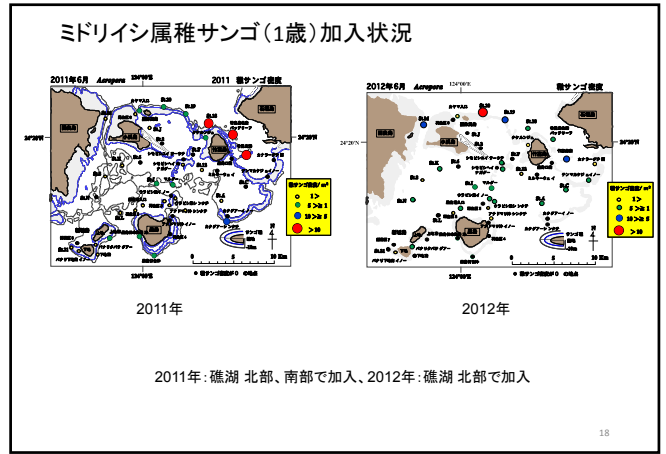
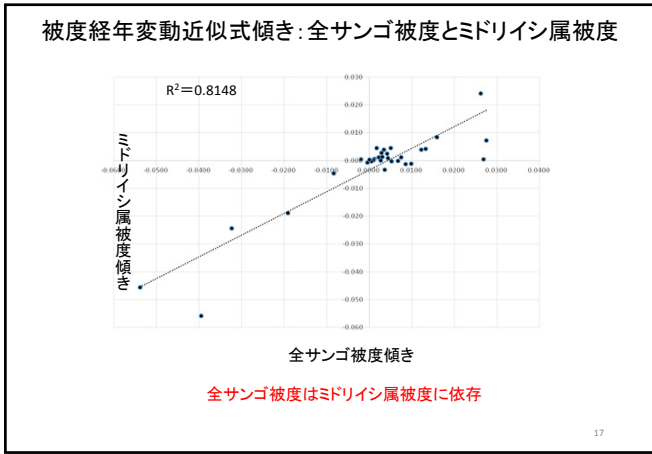
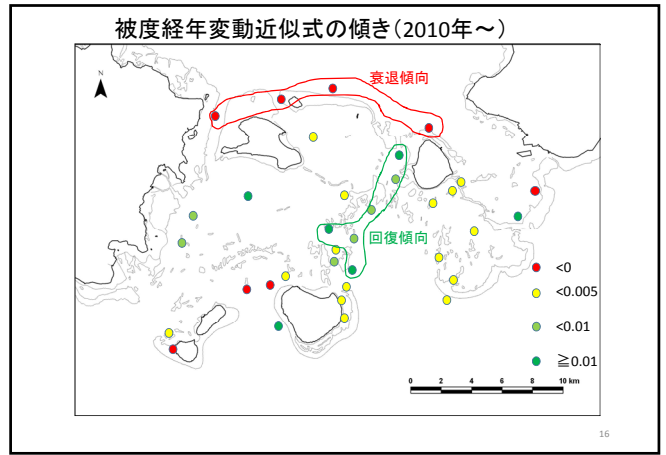
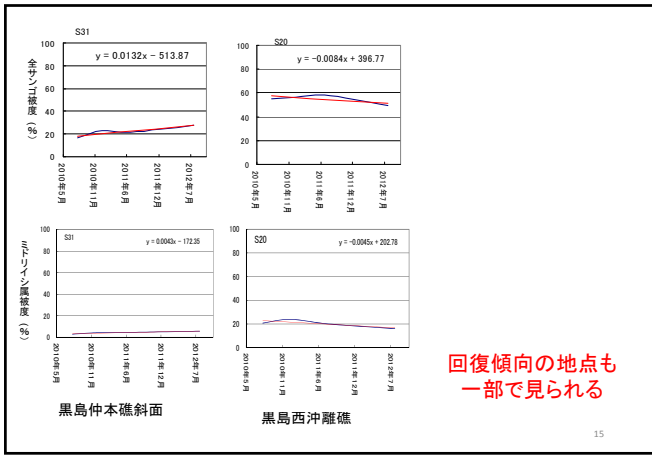
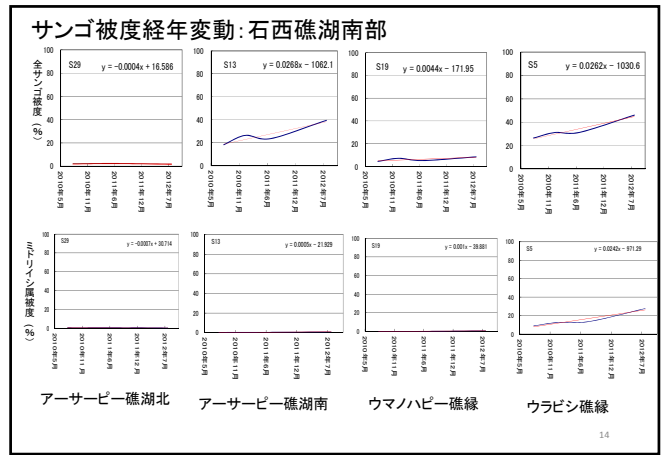
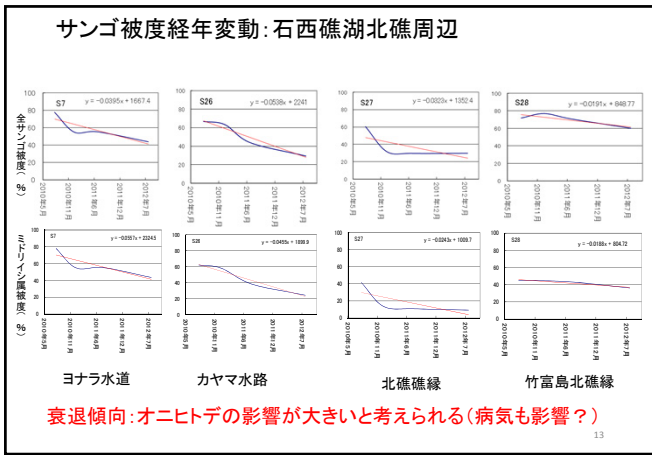


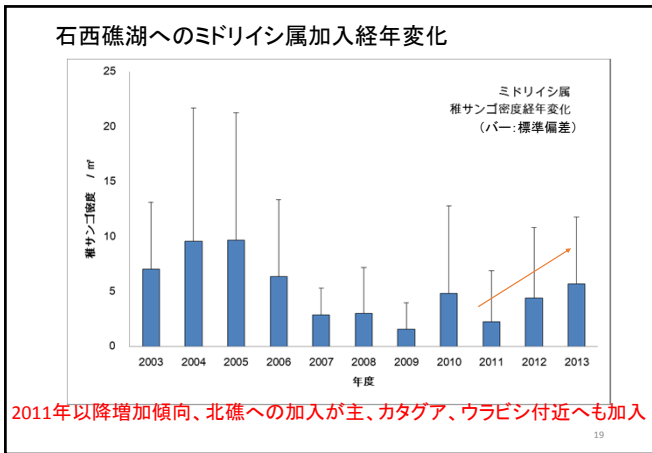
5



6



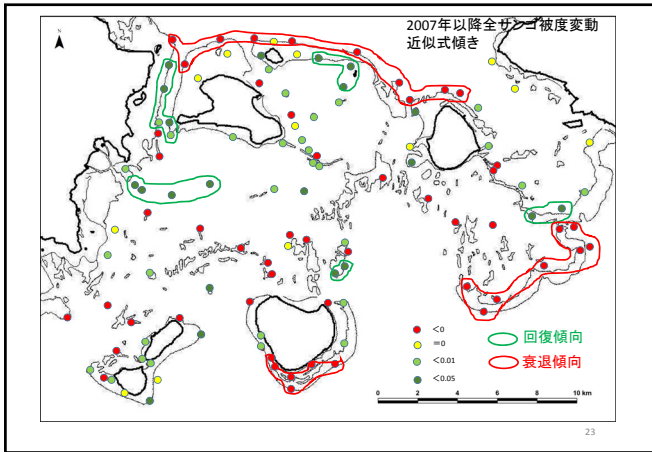
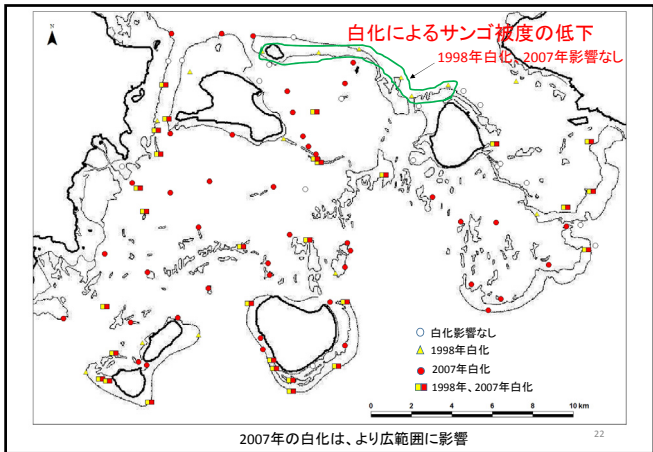




まとめ

- 近年、石西礁湖サンゴ群集は、
 - 全体としては顕著な回復傾向がみられない
 - 残された高被度域の北礁で衰退傾向がみられる
 - サンゴ被度回復はミドリイシ属の加入に依存している
 - 2011年以降、ミドリイシ属稚サンゴの加入が増加傾向（礁湖北部主体）
 - 礁湖南部でも加入がみられ、注視する必要がある

(2) 長期データ: 環境省モニタリングサイト1000調査結果 (1983年～)



まとめ

- 石西礁湖のミドリイシ属サンゴ群集の長期的変動傾向は、
 - 北礁、ウマノハピーの礁縁で衰退傾向
 - : オニヒトデ食害の影響、サンゴ病気等、しかし加入はある。
 - 礁湖内4ヶ所で回復傾向
 - : 枝状ミドリイシ属が主体、白化等で生残したサンゴが基になった？ウラビシでは加入も、流動条件がよい
- 衰退傾向にあり、加入が期待できない場所で再生を進める必要がある